

# 133

2021 SUMMER

## 美術館NEWS



収蔵品の紹介 Vol. 4

袖木久太《湖雲一帯》(部分)  
昭和38(1963)年  
油彩・カンヴァス  
91.0 × 116.7



# 絵画を読み解く―聖書主題と予型論

タイポロジー

橋村 直樹(学芸員)

16世紀のイタリア・ルネサンス絵画から20世紀絵画まで約400年にわたるヨーロッパ絵画の歴史を一望できる充実したコレクションを有する東京富士美術館。この夏、同館の誇るコレクションの中から西洋絵画史に燦然と輝く巨匠たちの作品83点を厳選して紹介する展覧会が岡山県立美術館で開催される(「ヨーロッパ絵画400年の旅―珠玉の東京富士美術館コレクション」2021年7月9日～8月29日)。

日本でも人気の高い印象派に代表される近代絵画のみならず、ヴェネツィア・ルネサンスやバロック、ロココといった近代以前の伝統的な絵画も同時に紹介されるこの展覧会は、二部構成となっている。第一部では、近代以前の絵画を「歴史画」「肖像画」「風俗画」「風景画」「静物画」という5つのジャンルごとに、それらを鑑賞する上で必要な知識や約束事とあわせて紹介している。そして第二部では、それまでの秩序や価値観を否定して展開していった近代絵画を、画家がどのような内容をいかに描いているかという、主題と表現の観点から捉え直している。ジャンルのヒエラルキーが重要だった近代以前の伝

統的な絵画を正しい知識や約束事に則って読み解くという知的喜びに満たされると同時に、視覚性や造形性を優先して表現の可能性を追求した近代絵画を感覚的に堪能できるまたとない機会となるはずだ。

ここでは、この展覧会で紹介される「歴史画」の中から聖書主題の作品であるヘラルト・デ・ライレッセの《天使たちを迎えるアブラハム》(図1)に注目し、伝統的な聖書解釈法の一つである「予型論」の観点から考えてみたい。

ここに描かれるのは、旧約聖書<sup>\*1</sup>の『創世記』18章1節から15節の物語である。アブラハムは偉大なユダヤの族長で、彼にはサラという妻がいた。長い間、子供に恵まなかった夫妻のもとに、ある日三人の旅人が訪れる。アブラハムは彼らのために子牛を屠って調理し、パンを焼いてもてなした。すると彼らの一人が、アブラハムとサラに来年子供ができると告げる。すでに高齢になっていた二人には信じられなかったが、旅人たちは主の使いの天使だった。そして天使たちが予告した通り、翌年、息子イサクが誕生する。

この『創世記』18章の物語を、「オランダのプッサン」と



図1:ヘラルト・デ・ライレッセ《天使たちを迎えるアブラハム》17世紀後半 東京富士美術館 ©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



図2

図2:ラヴェンナ、サン・ヴィターレ聖堂内陣北壁モザイク壁画 547年  
図3:アンドレイ・ルブリョーフ《聖三位一体》1420年代 トレチャコフ美術館

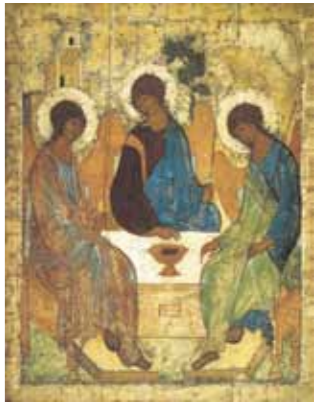


図3

も称されたライレッセは、フランス古典主義的な調和のとれた構図の中に描き出した。画面中央に白い顎髭を蓄えた高齢のアブラハムが立って身振りし、その左右で、二人の天使が椅子に座ってくつろぎ、一人の天使が優雅に立っている。アブラハムの足元では、召し使いの少年が天使の足を洗おうとサンダルを脱がせ、画面奥から召し使いの少女が盆を運んで来ていて、画面右端では妻のサラが天使たちの様子を窺おうと耳をそばだてている。

この作品が、高齢の夫妻に子供ができることを天使が告げるという劇的な旧約物語の絵画化であるとみなすことはもちろん正しい。しかしながら、この『創世記』18章に基づく主題は、キリスト教美術において伝統的に「アブラハムの歓待」として知られ、中世より様々に絵画化されてきたものであった。とりわけ、旧約聖書の人物や出来事が新約聖書の人物や出来事を予告していると考え、旧新約間の連続性を保証する聖書解釈法であるタイポロジーにおいて重要な主題であった。なぜなら、予型論的解釈では、天使たちがアブラハムとサラに子供ができると告げたことは、新約聖書において大天使ガブリエルがマリアに神の子を身籠ると告げる「受胎告知」の予型として考えられたからである。さらに、アブラハムがパンを焼いてもてなしたのは、パンがキリストの体であるという「聖体」を予型していると解釈された。例えば、イタリアのラヴェンナにある有名なサン・ヴィターレ聖堂内陣のモザイク壁画(図2)は、「アブラハムの歓待」を「聖体」の予型として絵画化している好例といえるだろう。ここでは実際に聖体の儀礼が行われた聖堂内陣の壁面にそれを予型する《アブラハムの歓待》が描かれることで、「聖体」の意味が強調されているのだ。さらに、同じ半円形壁面において、アブラハムが息子イサクを生贄として捧げようとする《イサクの犠牲》が描かれている。これは『創世記』22章の物語であるが、予型論的解釈では、父が独り子を犠牲に捧げることから「キリスト受難」

を予型する主題とみなされる。このように、サン・ヴィターレ聖堂内陣の壁画では、予型論的解釈に基づいて、旧約主題が新約の「聖体」や「キリスト受難」といった神学思想を喚起するものとして絵画化されているのである。

さらに、「アブラハムの歓待」の予型論的解釈は、キリスト教の抽象的な神学思想にまでおよぶ。アブラハムのもてなす天使が三人であることから、神の「聖三位一体」を示していると解釈されるのだ。「アブラハムの歓待」によって「聖三位一体」を描くもっとも著名な作例は、トレチャコフ美術館の誇るイコンの一つ、ルブリョーフによる《聖三位一体》(図3)だろう。このイコンでは、歓待するアブラハムもサラも省かれ、三人の天使だけに焦点が絞られている。父なる神、子なるイエス・キリスト、聖霊が一つであるというキリスト教の最重要な教理は、父なる神が不可視な存在であることから、もともと絵画化されにくいものであった。しかし、「アブラハムの歓待」という予型論的旧約主題を用いることによってこの抽象的な神学思想が巧みに絵画化されているのだ。

このように見てくると、ライレッセの《天使たちを迎えるアブラハム》にも予型論的に解釈する余地はありそうである。確かに、中世だけでなく、ルネサンスや宗教改革期、さらにはライレッセの活躍した17世紀の神学でもカトリック、プロテスタントを問わずタイポロジーは議論の対象にされていたし、ライレッセが師を通じて間接的に影響を受けたフランス古典主義の巨匠プッサンの作品も予型論的解釈がなされる場合がある<sup>\*2</sup>。

聖書主題の作品には、単なる物語の絵画化だけではない解釈の可能性が残されているといえるのだ。

\*1 旧約聖書は、キリスト教のルーツであるユダヤ教の聖典として伝わるもので、「旧約」という呼称はキリスト教独自のものであり、ユダヤ教ではただ「聖書」と呼ぶ。

\*2 望月典子「ニコラ・プッサンのスフィンクス:モーセ出生の物語をめぐって」『哲学』132号(2014年)255-280頁。



# Museum × 大学 —美術とダンスが出合った—

岡本 裕子(主任学芸員)



年代別利用者として、当館から遠い存在となっている高・大生を対象とした博学連携事業はとても魅力的である。一事例として、IPU・環太平洋大学ダンス部と協働実施した取り組みを紹介する。

同大学ダンス部が、2019年に制作した創作舞踊「旅路の果て—雪舟『山水図』より—」がご縁となり、特別展「雪舟と玉堂—ふたりの里帰り」(会期:2021年2月10日～3月14日)関連事業として、「美術×ダンス」\*に協働で取り組むことになる。せっかくの機会なので、創作舞踊の公演だけでなく、「新しい何か」にもチャレンジしたいという大学と美術館双方の思いが一致し、その一つとして、身体表現と墨をテーマにした即興「澁墨ライブパフォーマンス—舞痕淋漓\*2—」が生まれた。

「澁墨ライブパフォーマンス」にチャレンジするにあたり、森山知己氏\*3を招聘して、墨と紙の特性と水墨画について理解を深めるためにワークショップを実施した。ワークショップでの体験は、今回チャレンジしようとしている即興を、少しずつ形にしてくれた。墨と紙を使った身体表現を行うにあたって、音(音楽)をどうするか、使用する墨や紙の種類や大きさ、空間演出など具体的なイメージを双方で共有できるようになった。共有したイメージをもとに、学生たちは即興に取り組み始めるが、「不安を感じていた」「体を動かすことができなかった」という学生のコメントから、即興に対する苦手意識は大きかったことがうかがえる。ダンス部では、テクニカルなことだけではなく、学生一人ひとりの不安や葛藤に寄り添う丁寧な指導がなされていたことも学生のコメントからうかがい知ることができた。そして、展覧会担当学芸員が語る雪舟と玉堂講座を聴講し、室町時代や江戸時代の「時の記録」である作品を展示室でみて、一人ひとりの身体が時を積み重ねて吸収したことは、「澁墨ライブパフォーマンス—舞痕淋漓—」に昇華していった。

◇美術館で雪舟さんや玉堂さんの描いた絵をみてから踊ったことにより、絵の特徴を捉え世界観を表現することができました。絵をみることで自然と体や頭に水墨画の情景が浮かび上がり、体が勝手に動くような感覚がしました。後から動画を観てみると、今まで起こったことのな

い、初めてみた絡み方や構成が起こっていて、偶然がつくりだす美術はとても魅力的なものだと感じました。  
◇新しい自分と新しい芸術分野が見え、面白い動きに出合った時の面白さ、表現の難しさ、魅せ方や見え方、その違いや新しさなど果てしない可能性を感じ、踊りの深さを改めて考えさせられました。ダンスは「生もの」だと高校時代から監督に言われ続けてきましたが、本当にその通りだと思います。一度やった動きを同じ空気感、同じ呼吸の仕方、同じ雰囲気でもう一度やるのは不可能に近く、その時体から溢れたものが踊りだと思います。そして、「生もの」は「生物」と表記し、「いきもの」とも読み、踊りは人間と同じ生き物であると私は思っています。これからはダンスは進化し続け、生きているものに影響を与えてくれます。それは、美術作品も同じであり、ダンスと尺八と墨アートのコラボは芸術であり、ダンスの進化でもあります。また芸術の進化、時代の進化だと思いました。ただ、変わっていただけではなく、人々の想いをのせて変化していくと思います。その時に感じたものは、その時にしか味わうことができないものであり、これから進化し続けるものを、その時に感じ吸収していきたいと思います。

学生たちの感想レポートからは、ダンスと美術が出合ったことを通して、一人ひとりの中に、「新しい何か」が生まれたことがうかがえる(紙面の都合上、一部しか紹介できないことが残念である)。

ワークショップや展示室での本物体験が生きていたと同時に、現地を訪れ、当時生きていた人々の息遣いに想いを馳せ、書籍を活用して調べ学習するなど、ダンス部が一貫して行っているテーマを追求する姿勢と、日々欠かすことのない練習で培われた舞踊の基礎基本があったからこそこの境地であることは言うまでもない。

- \*1 即興「澁墨ライブパフォーマンス—舞痕淋漓—」(2021年2月28日開催)、創作舞踊公演「旅路の果て—雪舟『山水図』より—」・ワークショップ「雪舟・玉堂の全身体操」(同3月6日開催) <https://okayama-kenbi.info/topi-youtube-open/>
- \*2 「墨痕淋漓」をもとにした造語
- \*3 森山知己氏(日本画家・倉敷芸術科学大学教授)

# 岡山県博物館協議会創立30周年を迎えて

福富 幸(学芸課長)

我々美術館・博物館には、業界内のネットワーク組織として、広くさまざまなジャンルの施設が集う全国規模の《日本博物館協会》を筆頭に、館種ごとに組織された《全国美術館会議》や《全国科学博物館協議会》《日本動物園水族館協会》等があります。同業者として日頃から展覧会開催のための作品資料の貸借や研究調査、講演会や教育普及事業の講師を務めるなど、何かとお世話になったりお世話をしたりの関係で、来館者への対応や施設運営についても「お宅の館はどうされていますか?」と、相互に相談したり情報交換しているところです。近年、全国的に勃発する大規模災害で博物館施設や地域の文化財等が被災することも増え、そうした有事に際しては実働部隊としてレスキューに向向いたり、専門家として助言するなどの役割も担っています。

都道府県単位にも〇〇県博物館協会(協議会)と銘打って各県内の博物館施設等を束ねているところが多く、岡山県においても、平成3(1991)年5月、施設間の連携と職員の研鑽、交流を図るため、《岡山県博物館協議会》が組織されました。今年、創立30周年を迎え、発足時には59であった加盟館は86館(園)(R3.5.28現在)にまで増えました。当館は会長館として実務にあたっておりますが、設立母体は県、市町村立から私立(法人・個人)まで大小さまざま、館種も美術館、博物館から文学館、科学館、動物園まで、取り扱う対象、作品資料は、発掘された考古遺物や生活道具などの民俗資料、歴史資料、古文書、美術工芸品、文学資料、昆虫や動植物、宇宙、鉄道、被服、映像、医療等々、多岐にわたり、各館それぞれに大変個性豊かです。岡山県下に展開するこれらの館を、ひとつの<岡山の博物館>と捉えると、古代から現代まで脈々と続く人類の営み、衣食住に関わる品々、物作りの技術、環境や社会、美意識や思想、哲学まで、総合的に体感し学ぶことができるすごい博物館になるのではないかと思います。岡山県博物館協議会はそんな大きな博物館・岡山のスミソニアンを夢見て、ネットワークを育んできました。

このたび創立30周年記念事業として、各館についてより広く多くの方に知って頂くために、加盟館紹介パネル展示、加盟館職員が相互に講師を務めるワークショップや講演会、そして副賞付きのスタンプラリーを実施します。まずはお近くの館から足を運んでみてはいかがでしょうか。



(写真は創立25周年の時のWS、パネル展の様子)

岡山県博物館協議会30周年記念事業  
来んちゃい 来られえ おいでんせえ  
岡山県博物館めぐりの旅

県下の博物館施設が加盟する岡山県博物館協議会は、創立30周年を迎え、協議会地区の交流と発展と各地の活動活性化(県民に知ってもらうため、加盟館紹介パネル展示・加盟館職員によるワークショップやお話し・地下を巡るスタンプラリー)を先行し、多種の移動をお待ちしております。(14日、新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、中止又は開催変更の場があります)

◆加盟館紹介パネル展示スケジュール  
岡山県博物館協議会の加盟館の活動写真等(パネル)で紹介するのと共に、各種イベント情報、ぜひご来館ください。

4月	5月	6月
県内公立美術館 岡山県立美術館	女子美術大学文化館 岡山県立美術館	徳島県立美術館グループ 徳島県立美術館

◆加盟館交流事業  
県内各館の博物館施設において、加盟館職員が互いの施設を訪問し、話し合い、ワークショップ(WS)を開催します。岡山県各館を巡る文化館めぐりツアーです。移動する年ごとの詳細については各館館長に問い合わせください。

10月	11月	12月
東京国立近代美術館 10/5(水)~17(日)	岡山県立美術館 10/22(土)~17(日)	岡山県立美術館 12/2(土)~9(日)

1月	2月	3月
高松市立美術館 1/8(土)~22(日)	福岡県立美術館 1/22(土)~1/29(日)	岡山県立美術館 2/18(土)~2/27(日)

◆加盟館交流事業  
県内各館の博物館施設において、加盟館職員が互いの施設を訪問し、話し合い、ワークショップ(WS)を開催します。岡山県各館を巡る文化館めぐりツアーです。移動する年ごとの詳細については各館館長に問い合わせください。

10月	11月	12月
東京国立近代美術館 10/5(水)~17(日)	岡山県立美術館 10/22(土)~17(日)	岡山県立美術館 12/2(土)~9(日)

1月	2月	3月
高松市立美術館 1/8(土)~22(日)	福岡県立美術館 1/22(土)~1/29(日)	岡山県立美術館 2/18(土)~2/27(日)

主催：岡山県博物館協議会 共催：岡山県、公益財団法人岡山県観光文化財団、公益財団法人岡山県観光文化財団  
協賛：岡山県教育委員会、公益財団法人岡山県文化財団、協力：観光振興課



## 新収蔵品紹介

## File 19

炭田紗季  
《あの蓮池ならすぼんとはまってみる》

中桐 聡美(学芸員)



炭田紗季《あの蓮池ならすぼんとはまってみる》2019 油彩キャンバス 岡山県立美術館蔵

長い歴史の中で、様々な文化、流行が生み出されては、新たなものへと幾度も移り変わっている。その流れの中で形成されてきた社会を自身の視点から描く作家、炭田紗季の作品《あの蓮池ならすぼんとはまってみる》を紹介する。本作はF130号のキャンバス4枚から成る、高さ324cm、幅388cmの巨大な油絵だ。

炭田はこれまで、日本の文化や風景と、ファッション広告、記念写真、観光地の宣材などを重ね合わせることで、様々な文化が混在する異質なイメージを作り出してきた。加えて、彩度の高いフラットな色面による絵画表現が、様々な文化が混ざり合うイメージと鮮やかな対比を見せている。

本作は江戸時代後期、寛政5年に刊行された山東京伝作の黄表紙『花之笑七福参詣』をもとに制作された。物語の中で、弁財天に懸想した大黒天は、福祿寿と組んで、弁財天と恋仲の恵比寿を陥れようとする。その冒頭部分、恵比寿が弁財天を見初める場面が描かれている。髪を結び上げ簪を挿した女性が弁財天、烏帽子をかぶり頭が鯛の人物を侍らせている男性が恵比寿である。頭が鼠でスマートフォンを

握っている人物は大黒天の使いとして描かれ、奥に人工的な囲いが見える蓮池は弁財天を祀っている不忍池のようにみえる。日本的な要素を多く含む一方で、人物の体つきや顔立ち、白い布をまとった服装はギリシャの神々を連想させる。

七福神に寓した人物は彼女の作品にたびたび登場する。彼らは皆外国人であり、服装も水着、流行りのファッションなど様々だ。日本の神である七福神が異文化と融合し描かれているが、七福神自体もインドや中国など他国の神と習合して誕生している。また、本作の題材となった黄表紙は、江戸時代中期に刊行された草双紙、洒落や風刺など当時の文化や流行が強く反映されている大衆文学である。

第九回I氏賞受賞作家展「あたらしい古典」で作家はこう述べている。「私を取り巻く世界は様々な文化、伝統、流行が入り交じりいくつかが知らない間に姿を消す。これらの繰り返しで構築されている。見えているものを見えている通りに描きたい。」本作には、消えてしまった江戸時代の流行が、様々な文化のモチーフが混ざり合う現代の風景として再構成されているのだ。

## 展覧会スケジュール

6月  
June

6月22日|火|—8月29日|日|

【岡山の美術展】  
柚木玉郎・久太・祥吉郎  
—柚木家三代の絵画と精神<sup>エスプリ</sup>

港町・玉島で江戸中期より松山藩主に代々諸役として仕えて栄えた柚木家。本展では、柚木家の芸術家たちのなかから、詩書に通じ流麗な水墨画を描いた柚木玉郎(1865-1943)、その息子で、渡仏して研鑽し、清涼な風景画を得意とした柚木久太(1885-1970)、そして久太の長男で、人物のいる幻想的な風景画を残した柚木祥吉郎(1919-2005)という柚木家三代の絵画を一堂に展示し、それぞれの画業を振り返ります。

\*新型コロナウイルス感染拡大に伴い、会期などが変更になる場合がございます。  
最新の展覧会情報や、その他開催予定のイベントについては岡山県立美術館HPをご確認ください。  
<https://okayama-kenbi.info>

6月26日|土| 14:00~15:30

鼎談 「玉島と柚木家三代の絵画」  
講師 鍵岡正謹(当館顧問)、橋村直樹(学芸員)、  
八田真理子(学芸員)  
会場 2階ホール(先着180名) ※申込不要、聴講無料

7月  
July

7月9日|金|—8月29日|日|

【特別展】  
ヨーロッパ絵画400年の旅  
—珠玉の東京富士美術館コレクション

16世紀のイタリア・ルネサンス絵画から20世紀の現代絵画まで400年にわたるヨーロッパ絵画の歴史を見渡すことのできる充実した油彩画コレクションを誇る東京富士美術館。本展では、同館の珠玉の西洋絵画コレクションのなかから、ティントレット、ミレー、モネ、ルノワール、セザンヌ、シャガールといった西洋絵画史において燦然とその名を刻む巨匠たちの作品83点を展示することによって、豊饒なヨーロッパ絵画の世界を紹介します。

7月10日|土| 14:00~15:30

記念講演会 「名画を旅する90分」  
講師 五木田聡氏(東京富士美術館館長)  
会場 2階ホール(先着180名) ※申込不要、要観覧券(半券可)

8月  
August

9月8日|水|—9月19日|日|

岡山県美術展覧会

9月  
September

9月8日|水|—11月3日|水・祝|

【岡山の美術展】  
草間喆雄  
—美しき色彩のコンポジション

鮮明で美しい色系を用い、立体的に構築した織作品、細いワイヤにコイルリングし重ね合わせた作品、小さな丸いフェルトを重ねてピン打ちした作品など、日本のファイバーアートの第一人者として活躍する草間喆雄の50年にわたる創作活動を振り返ります。



収蔵品の紹介 Vol. 4

柚木久太《湖雲一帯》  
昭和38(1963)年 油彩・カンヴァス 91.0×116.7cm  
柚木久太は全国各地の湖を訪れ、その風景を描いている。本作は十和田湖の風景である。湖面の波光の淡い緑色と大霧などが密生する湖岸の植物の緑色、さらに山や空を彩る青色、そして空にたなびく雲の白色が調和しており、初夏の十和田湖の湿潤な空気感がみごとに表現されている。(橋村)

### 長い道のり？

守安 収

5月16日、岡山県に緊急事態宣言発出。前回に比べて感染者数は驚くほど増えていきます。国内の美術館・博物館での感染事例はありませんが、「人流」抑制を第一義とする県の指針に沿って休館しました。作品が到着し、図録も完成、残るは展示作業だけの①特別展「熊本県立美術館所蔵 今西コレクション 肉筆浮世絵の世界 アナザーワールド発見！」と②常設(岡山の美術)特別展示「柚木玉邨・久太・祥吉郎—柚木家三代の絵画と精神」は延期です。②は再開後すぐに開始、①は秋に移動するように日程を組み替えましたが、恒例の「日本伝統工芸」展と一部会期が重なるため、共通料金を設定し、割引を導入するなど相乗効果が生まれるように工夫してみました。コロナに振り回されるのは今回で最後にしたいところですが、万事解消までには長い道のりをたどるのかもしれない。▼長い道のりといえば、かつては学芸員の成長は時間をかけて場数を踏むということと軌を一にしていました。ところが、近年は全国的に採用数が少ないことから即戦力需要が高まり、実務経験が重視されるため、キャリアのスタートは非常勤や年限付きからといったパターンが多くなりました。真っ白な新人が採用された場合でも、促成栽培、すぐに一人前扱いされてしまう傾向が強まっています。40年ほど前の私の体験—学芸員室で本を読み、各所を訪れてお話をうかがい、調査・研究をしつつ展覧会に備える—といった、今にして思うと実に恵まれた環境とは随分異なります。そんな現況においても素晴らしい成果を上げている若い学芸員をみる度、感動を覚えます。ちょうど今、当館は正規の学芸員を募集中。来春から一緒に働くことが楽しみです。

(5.25稿)



〒700-0814 岡山市北区天神町8-48  
TEL 086-225-4800 FAX 086-224-0648  
Email kenbi@pref.okayama.lg.jp  
<https://okayama-kenbi.info>

交通案内 JR岡山駅後楽園口(東口)から  
・徒歩約15分  
・路面電車 東山行「城下」下車徒歩約3分  
・宇野バス 四御神、瀬戸駅、片上方面行「表町入口」下車徒歩約3分  
・岡電バス 藤原団地行「天神町」下車すぐ

開館時間 9:00—17:00 (入館は16:30まで)  
「美術の夕べ」実施日と夜間開館日は19:00まで(入館は18:30まで)

休館日 月曜日(休日の場合その翌日)／年末年始／展示替え期間中

※一部の公共交通機関では新型コロナウイルス感染拡大に伴い、一部運休している場合があります。ご利用の際は事前にご確認くださいませようをお願いいたします。

### 編集後記

中西ひかる

新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館や展覧会の延期など、慌ただしい梅雨入りとなりました。当館ホームページでは、外出しなくても美術館を楽しんでいただけるWEBコンテンツとして「#おうちでミュージアム」を公開しております。また、昨年開設した公式YouTubeチャンネルでは、展覧会関連音楽イベントの映像もご覧いただけますので、おうち時間にぜひご活用いただけたらと思います。この度延期となった展覧会も、新しい会期で皆様のお目にかかれるよう準備を進めておりますので、どうぞご期待ください。